



子どもたちにより深い学びを 土山小学校のプログラミング教室

土山小学校では地域とともに進めているコミュニティスクールの中で、夏休みや冬休みなどにICTを積極的に活用した教室を開いています。

これまで、ゲームの製作やドローンを使った学習、子どもたちがロボットのプログラミングなどを体験し、より深い学びにつながっています。

こんな動きが
面白そうだな～



タブレットを使いロボットの動きをプログラミングする児童▲



▲ロボットの動きを見守る児童たち

カッコいいな!



地域を好きに なってくれる 子どもたちへ

土山学区自治振興会
会長 吉川 政樹さん



「活動の中心は子どもたちです」と話す吉川さん

「子どもたちには大人気のドローンを使った教室を開いていますが、それはあくまできっかけだと思っています。

空き家を活用した昔ながらの茶工場を再現し、子どもたちにお茶の製造工程を学んでもらうことも考えており、アナログとデジタルをうまく織り交ぜながらの活動を通じて子どもたちには自分たちの地域を好きになり、静かで自然豊かな土山で



▲ドローン教室の様子

将来も暮らしてほしい、そんな思いでこれからも活動をしていきたいです。」



いざという時に 備えるデジタル化

大原自治振興会
運営委員 西村 俊昭さん



「コロナにより対面が制限される中、幸いメンバーがLINEを使っていたこともありビデオ通話を使いだしたのがきっかけです。Zoom機能を使った会議を進めていけたのも、メンバーのみんなが理解してくれたことが大きな要因でした。一方で、顔を合わせてのコミュニケーションも大切だと感じています。LINEやZoomは状況に応じコミュニケーションを補完するための道具だと思うので、うまく両方を使いこなしていきたいです。

今後も各部会のメンバーへのデジタル講習会を実施するなど、普段から何が起こっても初動体制が早く取れるような環境を作っていきたいと思います。」

「デジタルをつまみ活用し緊急時に対応できるように普段から使えるようにしておきたいです」と話す西村さん

もっとスマホを 使えるようになりたい 100歳大学のスマホ教室

に参加された

水口町
平本 久美子さん



「大好きな花の名前をスマホで検索するのも楽しいです」と話す平本さん

「主に使っているのはLINEです。これまでから孫の写真を家族で共有したり、子ども食堂やサークルのグループに連絡する時などとても便利です。スマホ教室に参加し、マップ機能を使い行先まで電車やコミュニティバスの乗り換え案内ができることを知り、とても便利だと感じました。まだまだスマホには知らない機能があると思うので、これからもこうした教室に参加していきたいです。」

令和5年度の甲賀100歳大学の第二期生の募集は5月頃を予定しています。詳しくは市ホームページなどでご案内します。
※現在は募集していません。

市ホームページ▶



I (いつもの暮らしが) C (ちょっと) T (たのしみ) デジタルで暮らしを豊かに

子どもたちへのプログラミング教室や高齢者を対象としたスマホの操作講習会など、市内でもICT※(情報通信技術)があらゆる場面で活用されています。学校や地域、自治会などでの取り組みを取材しました。

※Information and Communication Technology(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)の頭文字を略した言葉で、通信技術だけではなく、メールなども含まれます。

ドローンの魅力を初体験

いわがみ自治振興会のドローン教室に参加した
むらかみ こうへい ばん はるい
村上 耕平さん・伴 悠生さん



「ドローンを動かすのが楽しかった」と話す村上さん(左)と伴さん



▲ドローンを操作する児童

村上さん、伴さん「ドローンを操作するのは初めてでした。どのように飛行するのか、そのしくみを知りたかったので参加しようと思いました。」

村上さん「実際のドローンは大きくて重かったです。陸上型はタイヤがあるのに横に動くのが何故なんだろうと不思議に思いました。見てみるとタイヤに斜めの溝があることがわかりました。」

伴さん「学校ではタブレット操作が基本ですが、今回のような、実際にロボットなどが動かせるプログラミングをこれからもやってみたいです。」



陸上型のドローン▲

お金では買えない“つなぐ・まなぶ・支える”地域づくり デジタル地域コミュニティ通貨『まちのコイン』

さとやまプラス
SATOYAMA+



いちかわ ゆきひろ
市川 幸弘さん



「まちのコイン」を通じた地域づくりに取り組む市川さん

「SATOYAMA+は、今ある地域資源を活用し、一人でも多くの方がまちづくりに参加してもらえるよう、里山の持つ、生物多様性と共存共栄の仕組みを応用して活動しています。

まちのコインは、現在全国の自治体や企業などが参加しているデジタル版地域通貨のことです。滋賀県は昨年7月から導入し、通貨は「ビワコ」と呼ばれています。これは、お金で物を買うのではなく、スポットと呼ばれる場所で、さまざまな体験を、ビワコをあげたり、もらったりする仕組みです。ビワコは、あげたり、もらったりすることで、ちょっとのお得を楽しめるツールでもあります。

また、ビワコは、利用者間で、「感謝のコイン」として贈ることができます。数人のグループ内でのビワコの

やりとりが活発に行われ、さらに複数グループでのやりとりが自然発生すれば、新たな出会いが生まれる。そんなつながりが、甲賀の新しいまちづくりになればと、未来の夢を描いています。

まずはこの“まちのコイン”を一人でも多くの方に知ってもらおう活動を続けていきたいですね。」

★まちのコインアプリはこちらから★

アイフォンの方▶



アンドロイドの方▶

